

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	価値的・態度的側面のみならず、知識的側面や技能的側面に関する指導がバランスよく行われ、実践力・行動力の育成につながっている事例
-------	---

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

宮崎県延岡市

○学校名

宮崎県立延岡商業高等学校

○学校のURL

<http://www.miyazaki-c.ed.jp/nobeoka-ch/>

2. 学校紹介

○学級数

【経営情報科】 3 学級【会計科】 3 学級【流通経済科】 3 学級【商業科】 6 学級
【合計】 15 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 576 人（平成24年11月15日現在）
（内訳：1年生203人、2年生197人、3年生176人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

宮崎県教育基本方針および宮崎県人権教育基本方針に基づき、個性の伸長に努め、体・徳・知の調和のとれた、主体性・先見性・創造性・実践力のある人格の完成を目指し、郷土・国家・国際社会の発展に貢献できる、質実剛健にして堅忍持久・勤労愛好の精神に富む人材を育成する。

【目指す生徒像】

- 心豊かで逞しく、実践力のある生徒
 - ①規範意識・人権感覚等を身につけた品格ある言動ができる生徒
 - ②夢の実現に向けて粘り強く、主体的に取り組む生徒
- 地域社会・産業界で貢献、活躍できる資質を備えた生徒
 - ①地域社会・産業界等から期待され、信頼できる生徒

○人権教育にかかる取組の全体概要

- 全教育活動を通じて基本的人権を尊重できる人間の育成を目指す。学年ごとに1・2学期にそれぞれ1回（2時間）人権教育に関するホームルーム活動の時間を設定し、在学する3年間を通して、発達段階に即した継続的な取り組みを行う。その中で、就職活動を始め実社会の中で直面する差別に対処できる能力を培う。
- 生徒の多様な人間関係を結ぶ力の育成、相手を思いやる心を養うために、ホームルーム活動をはじめとする全ての活動を通じて計画的に展開する。
- 学校行事などを通して家庭・地域社会との連携を深め、校種間連携では特別支援学校との交流学习を行い系統的な人権教育を展開している。

3. 特色ある実践事例の内容

◆ ピア・サポート活動推進のための取組

(取組のねらい・目的)

- ・ピア・サポート活動を推進することで、コミュニケーションスキル・問題解決・対立解消法などを学び、自己肯定感や自分の周囲にいる友人が困った時にスムーズに支援できる人材を育てることにより、思いやりにあふれ協力し合う学校環境を創り出すことを目的とする。

(取組を始めたきっかけ)

- ・本校では、平成 18 年から学年単位・クラス単位で積極的にグループエンカウンターを取り入れ、学校全体で好ましい人間関係づくりに取り組んでいたが、その以前から、学校生活では、生徒のコミュニケーションスキルの未熟さから、良好な人間関係を築くことができずトラブルが生じることが多い状況があり、生徒のコミュニケーションスキルの向上を促す実践的取り組みの場が少ないという課題があげられていた。

平成 23 年に宮崎県教育委員会から「高校生による人権感覚あふれる人づくり推進事業」に係るグッドパートナーシップ推進校の指定を受け、ピア・サポート活動を実施。ピア・サポーターを育成し、高校生による相談活動等の支援活動を実践することになった。

(取組内容)

- ・ピア・サポートとは、ゲームやロールプレイングを活用した体験的なトレーニングを通して、生徒たちの基礎的な社会スキル（技能）を育て、最終的には生徒同士（仲間＝p e e r）が互いに支え合えるような関係を創り出そうとする取り組みである。

活動の流れとしては、トレーナーである教師がパワーポイントなどを使用し、ピア・サポート活動や援助の基本的な考え方、单元ごとに人間関係のスキルについて講義、その後、体験的なトレーニング活動によって、仲間同士のリレーション作りや信頼体験、相互理解を促進し、人間関係のスキルを習得するプログラムである。



(1) 校内推進体制づくり

平成 23 年 8 月に「グッドパートナーシップ推進委員会」を設置。委員会は、教育相談委員会と兼ねるものとし、メンバーは、教頭・教務主任・生徒指導主事・進路指導主事・教育相談主任・特別支援コーディネータ・学年主任とした。

実際には、実施日程や内容などについて、教育相談部が中心となって計画している。学年主任会（校長・教頭・各学年主任・教務主任・生徒指導主事・進

路指導主事・教育相談主任（特別支援コーディネータ兼務）や校務運営委員会に提案しながら、実施についての検討を行った。

(2) ピア・サポーターの募集

◎H23 12月実施

部活動の代表者および希望者とし、2週間程度の募集を行った。文化部・運動部から、32名の申し込みがあった。

◎H24 6月実施

新生徒会を中心に、各クラス役員及び希望者とし、1週間の募集を行った。33名の生徒の申し込みがあった。

(3) ピア・サポートトレーニング実施・内容

平成23年 12月26日（冬季休業中）

実施時間 午前9時～午後3時30分

参加生徒 29名

担当職員 6名（トレーナー1名、生徒をサポートするアシスタント5名）

<トレーニング内容>

- ①ピア・サポートを学ぶにあたって
- ②非言語コミュニケーション～誕生日チェーン～
- ③他者理解 ～質問じゃんけん～
- ④信頼体験 ～トランスフォーム～
- ⑤自己理解 ～エゴグラム～
- ⑥他者理解・自己理解 みんなを知ろう・自分を表現しよう
～二者択一・私の解決方法～
- ⑦自己受容 ～リフレーミング～
- ⑧傾聴訓練 ～FELORで傾聴～
- ⑨対立解消 ～AL‘S法・WIN—WIN法～
- ⑩自己主張 ～アサーショントレーニング～

参考文献：すぐ始められるピア・サポート 指導案&シート集
(ほんの森出版)

平成24年 6月29日（期末テスト最終日）

実施時間 午後2時～午後4時45分

参加生徒 27名

担当職員 7名（トレーナー3名、生徒をサポートするアシスタント4名）

<トレーニング内容>

- ①ピア・サポートを学ぶにあたって
- ②他者理解 ごちゃ混ぜビンゴ
- ③信頼体験 ～トランスフォーム～
- ④自己理解 ～エゴグラム～
- ⑤他者理解・自己理解 ～今までの最高の思い出～ ～二者択一～
- ⑥自己受容 ～リフレーミング～
- ⑦傾聴訓練 ～FELORで傾聴～

参考文献：すぐ始められるピア・サポート 指導案&シート集
(ほんの森出版)

(取組の頻度)

- ・今年度は年2回を計画している。平成23年度は推進事業が指定された年であったので、ピア・サポートについて職員の研修や準備もあり1回の実施となった。今後は、学期に1回(年3回)の実施を目指したい。

(取組を実現するにあたって課題)

- ・ピア・サポート活動を実施するにあたって、参加する生徒や時間の確保などが問題にあがった。ピア・サポート活動を委員会活動の中で行う事も検討したが、本校は定例の委員会活動を行っていないことや、放課後の検定課外や部活動の練習で、定期的に放課後の時間をトレーニングに充てることが難しいということになった。また、学年単位でクラスでの実施については、現在、クラスで年3回グループエンカウンターを行っているということからピア・サポートトレーニングについては見送られた。検討の結果、「集中型」トレーニング(終日もしくは半日のワークショップ形式)の形式をとった。
- ・推進事業の指定を受け、職員会議の時間を使いピア・サポートについて説明、トレーニング内容などを紹介して協力・理解を求めた。生徒へのPRも必要だが、全教職員の共通理解をもって、活動を推進することが必要である。

4. 実践事例の実績、実施による効果

- ・実施後の生徒アンケートで、傾聴訓練やアサーションなどに興味を持った、今後活用したいという生徒の意見や、このような活動も大切だ、今回参加して勉強になったという意見が多かった。生徒同士で助け合い・支え合うことの大切さや人間関係のスキルの習得について意欲的に取り組み、積極的な意見が出たことは、成果としてあげられる。
- ・ピア・サポートトレーニング後に、受講した生徒が学級で人間関係に悩む友人のサポートを行い、不登校傾向から学級への復帰に貢献したという事例を担当から聞くことができた。
- ・教育相談部以外の教職員でトレーナーやアシスタントとしての参加が増えている。また、部顧問から積極的に部員へ参加を促す部活動もあり、ピア・サポート活動に対する教職員の理解や協力の輪が広がっている。

〈平成23年 12月実施の感想文から〉

- 最初のほうは、とても緊張していてうまくコミュニケーションなどがとれなかったと思う。だけど、時間がたつにつれて相手といろいろ触れ合ったりしているうちに、緊張感もなくなった。途中からリラックスした状態で取り組めた。自分は、野球部キャプテンとして部員全員をまとめられるように今日習ったコミュニケーションをいかしていきたい。
- 今回、ピア・サポートに参加して、自分のタイプやタイプにあった改善の仕方なども分かってこれからの生活の中でも、どんどん実践していきたいと思いました。特に、傾聴とアサーショントレーニングの二つについては、今後の将来にとっても大切なことになってくると感じました。私はあまり自己表現が得意ではないので、今日の講座を通して、少しでも自己表現が出来るようになりたいと思いました。今日は、この講座に参加できてよかったです。

〈平成24年 6月実施の感想文から〉

○最初は、講座を聞かなくても話の聞き方とかは、もう知っていると思っていたけど、実際に受けてみるとまだ、自分の知らない事を学べたので良かったです。もちろん最初のうちは仲の良い友達と、ごちゃ混ぜビンゴをやっていたけど、後になると普通に1年生男子と話せたので、何気に嬉しかったです。リフレーミングでは、自分の短所はもうマイナスとしか認識していなかったもので、長所に変えてもらえた時は嬉しかったです。

○今日のピア・サポートは、とてもためになったと感じました。特に傾聴は、自分自身、人から話を聴くことが多いので、こんなふう to 人の話を聴けば、相手も嫌な気分にならずにいられるんだなと分かって、今後 to 活かしていけると思いました。私は人と話をするのが苦手だったけど、今日の活動を通して前よりも人と話すことの楽しさを感じることが出来ました。自分の短所である人見知りを少しでも克服できるように、これからたくさんの人と話してみたいと思います。今日は年下の子たちばかりと話したけど、今からは自分よりも年上の人と話す機会が増えていくと思うので、人との話し方も勉強しなきゃなと思いました。

5. 実践事例についての評価

- ・ピア・サポート活動が予防的・開発的な実践活動であるため、学校全体がすぐに何か大きく変わることはないが、今後、ピア・サポート活動を継続して行うことで、コミュニケーションスキル、問題解決、対立解消法などを学び、自己肯定感や自分の周囲にいる友人が困った時にスムーズに支援できる人材の育成には効果的な取組である。人間関係に配慮できる生徒が増えることで、学級や学校が活性化することが期待できる。
- ・自らピア・サポートに興味を持ち申し込みをした生徒や人間関係に悩み、解決方法を探している生徒など様々な生徒の存在を知りピア・サポートの必要性を感じた。ピア・サポート活動について、生徒や職員の理解をますます深めていき、さらに、この活動を継続して行い学校全体で人権教育の一層の充実を図っていききたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

宮崎県立延岡商業高等学校

「ピア・サポート活動」に主眼を置いた取組である。ピア・サポート活動を推進することにより、コミュニケーションスキルや問題解決法・対立解消法等を学び、自己肯定感を養うとともに、自分の周りにいる友人が困った時にスムーズに支援できる人材を育てることを目的とした取組となっている。

体験的なトレーニングを通じて児童生徒の基礎的な社会スキルを育て、児童生徒同士（仲間＝peer）が互いに支い合える関係を創り出すピア・サポート活動は、近年、教育分野のみならず、多くの分野で着目されている活動である。

本校も、人間関係スキルの習得・向上に主眼を置き、傾聴・アサーショントレーニング・リフレーミング等の手法を織り交ぜながら効果的な学習を進めている。コミュニケーションスキルの向上を図り、問題解決法・対立解消法の習得に資するピア・サポート活動の今後の可能性を感じさせる取組である。